

みんなの広場

『人権の花』贈呈式

思いやりの心で花を育てよう

山代西小学校で『人権の花』贈呈式がありました。これは、唐津・伊万里人権啓発活動地域ネットワーク協議会が、花の栽培や観察を通して思いやりの心を育ててもらおうと、小学生を対象に取り組んでいる運動です。マリーゴールドなどの花苗を贈られた児童たちは協力し合ってプランターへ移植。秋には大切に育てた花の観賞会をします。



↑手順を確認しながら、丁寧に花苗を移植する児童たち

伊万里子ども未来 こども食堂

支え合いで、おなかいっぱい

特定非営利活動法人のいちご会（伊万里町）が黒川コミュニティセンターで、こども食堂を開きました。子どもの個食・孤食が気になりな大瀧美奈子理事長が5年前から取り組んでいて、食材は農家や市内企業が無償で提供されたものを活用。コロナ禍の現在では、月1回程度、各コミュニティセンターを回って弁当を安価で販売しています。



↑「困っている人が声をかけてくれるきっかけになれば」との思いで手渡す大瀧理事長（左から2人目）

市防災講演会

自ら備え、地域で助け合う

市民センターで市防災講演会があり、地区防災委員など121人が参加しました。この日は、佐賀地方気象台による防災気象情報の活用に関する講話に続いて、佐賀県総合防災アドバイザーの瀧本浩一たきもとこういちさんが講演。「災害に対しては、ふだんから自助（命を守る備え）と自主防災組織などの共助（助け合い）の推進が必要」と話しました。



↑災害における地域の自助・共助について講演を行う瀧本さん

伊万里実業高校フードプロジェクト部がウクライナ支援

世界の子どもたちが幸せに暮らせるように

SDGsに対する取り組みを継続的に行うフードプロジェクト部が、佐賀県ユニセフ協会を通じて、ウクライナ緊急募金に100,363円を寄付しました。これは、5月3日に駅前公園で開催したスイーツ販売会の売上金と街頭募金活動で集めたものです。部員たちは「遠くからでも世界の子どもたちを救えると思ったから」と話しました。



↑佐賀県ユニセフ協会のスタッフに思いを託すフードプロジェクト部の部員たち

消防団員入団式・初任者（新入団員）訓練

自らの地域は自らの手で守る

市民センターで市消防団員の入団式があり、新たに50人が入団。計898人になりました。池田義幸消防団長は、「誰からも信頼される消防団員になることを期待します」と激励しました。また、厳正な規律を身に付けるとともに、団員の結束を強固にするため、伊万里消防署などで整列・敬礼やホース使用の指導などの初任者訓練がありました。



新入団員を代表して宣誓する二里分団第5部の永元暢一さん



↑新型コロナウイルス感染症の影響により3年振りの実施となった初任者訓練には、1～3年目の団員113人が参加

禅と俳句に生きた伊万里の俳人

森永杉洞老師をもっと知ってもらいたい

円通寺の住職を務めた俳人 森永杉洞^{さんどう}老師を多くの人に知ってもらうために活動するゆめさが大学唐津校10期生の学生10人が、伊万里実業高校の図書部員7人と高校（商業キャンパス）敷地内にある句碑の拓本採りを行いました。図書部員は、「杉洞老師のことは知らなかった。ふだんできない経験ができて、よい思い出になった」と話しました。



↑初体験の拓本採りに「紙を破かないようにゆっくり」と声をかけあいながら、墨付け作業を行う学生と生徒たち

森永製菓株式会社連携事業第4弾！

森永製菓『キヨロちゃん』に大歓声

森永製菓株式会社との連携事業として、6月10日の『ミルクキャラメルの日』にあわせて、マックスバリュ伊万里駅前店でイベントを開催しました。森永製菓の商品購入者を対象とするスピードくじや、いまりんモーモちゃんの塗り絵コーナーがあり、グーしか出せないキヨロちゃんとのじゃんけん大会では、子どもたちが圧勝していました。



チョコレートでできている『キヨロちゃん』（左）は、暑い中でも子どもたちを喜ばせてくれます



↑マックスバリュ伊万里駅前店の森永製菓特設ブースをPRする田中光一店長（右から1人目）と森永製菓社員の2人

子どもたちの『アユの放流体験』事業

二里町の良いところを知ってほしい

二里町元気なまちづくり推進協議会が、魚と触れ合うことで有田川の環境保全の重要性を学び、親んでもらうことを目的とした体験事業を実施しました。中里・医王保育園の年長児17人が、有田川に約3,000匹のあゆを放流。協議会の前田清浩^{きよひろ}会長は、「豊かな自然を体感してもらい、子どもたちの思い出に残れば」と話しました。



↑「大きくなあれ」と言いながらあゆを放流する園児たち